

新年号

酪農とちぎ



- 1 ページ 表紙
- 2 ページ 組合長挨拶
- 3 ページ 栃木県知事挨拶
- 4 ページ 青年部部长、女性会会长挨拶
- 5 ページ 部課だより（生乳販売課）
- 6 ページ 部課だより（業務部）
- 7～8 ページ 東西南北（各支所）
- 8 ページ 理事会だより、お知らせ、市場成績



迎春
謹んで
新春のお慶びを
申し上げます



新年の挨拶

酪農とちぎ農業協同組合

代表理事組合長 坂主 正



新年明けましておめでとうござ
います。

組合員の皆様におかれまして
は、旧に倍しておめでたい新春を
お迎えのこととお慶び申し上げま
す。日頃より組合事業に特段のご
支援ご協力を賜り厚くお礼申し上
げます。

昨今の日本を取り巻く環境は、
中東においてはIS等のテロリス
ト集団が各国の協力によってや
鎮静化をしている様ですし、石油
の減産に各国が歩調を合わせ、ど
うやら数年ぶりで燃料価格も値上

げ基調になりそうです。

また、特筆すべきは日米の安全
保障と経済において次期大統領に
トランプ氏が選出され、外に向
かって米国の保護主義に近い発
言が多く聞こえていることはTP
Pの不参加ばかりではなく、自由
貿易をも否定し、貿易立国を目指
している日本にとってもマイナス
に向かわなければと心配です。

また、中国も世界第2位の経済力
にもの言わせ、相変わらずの拡
大主義に走り海洋進出を計ってい
るなど、周りの国がすべて問題を
かかえて、日本の立ち位置も今後
難しい局面が多くなることが懸念
されます。

一方組合において、秋の長雨に
よる飼料作物の収穫の遅れ、また
牧草の作付けの遅れが来年度にと
の様な影響があるのか懸念されま

すが、本年度も「持続的成長を可
能にする生産基盤の構築を図る」
ことを目的に、緊急酪農生産基盤
拡充対策として不需要期乳価期間
(12月～3月の4ヶ月間)に出荷
乳量に対して2円/kgを措置する
こととしましたので、趣旨を理解
されて経営に役立てて頂きたいと
思います。

TPPの承認が当然あるだろう
と予想して国内畜産酪農の基盤強
化を意図して実施された畜産ク
ラスタ事業は、参加要望数をみま
すと組合員皆様の生産意欲が高く
歓迎するところではありませんが、
その要望に十分応えられておらず
今後も国に対し事業継続を要請し
て参ります。組合員皆様におかれ
ましては、個々の経営規模、条件
を見た収益力が向上する適正な投
資を是非お願いしたいところであ
ります。

また、国においては規制改革会
議において、50年来実施され実績
を上げてきた指定団体制度につい
て、規制改革の名のもと廃止も含
めた抜本的な改革を迫って参りま

した。農業ワーキンググループ、
畜産・酪農対策小委員会等におい
て各種団体からの意見を踏まえ調
整を行った結果、11月末に指定団
体制度の機能強化と併せ部分委託
の解禁、アウトサイダーにも補給
金を交付することが決定し、今後
「牛乳・乳製品の生産・流通等の
改革」に伴う法案整備が、次期通
常国会に提出される見込でありま
すが、部分委託については、乳価
の低下による酪農所得減少、指定
団体機能の形骸化も危惧されるこ
とから、引き続き異議を申し上げ
ていきたいと思えます。

今後も引き続き、中長期を見越
した中で組合員の皆様の声をしっ
かり受け止め、行政・関係諸団体
のご指導を賜りながら、より一層
の発展に向け役員一体となり組
合運営に取り組んで参りますの
で、皆様のご理解ご協力をよろし
くお願いいたします。

結びに、組合員の皆様のご健勝
とご多幸を祈念申し上げ新年の挨拶
といたします。



新年知事あいさつ

栃木県知事 福田 富一



酪農とちぎ農業協同組合の組合員、役職員の皆様、あけましておめでとうございます。

私は、昨年の知事選挙におきまして、多くの県民の皆様から御支援をいただき、引き続き県政を担わせていただくこととなりました。県内各地で県民の皆様の実声やふるさと「とちぎ」に対する熱い思い、県政への大きな期待をお伺いし、改めて責任の重さを感じたところでもあります。引き続き、県民中心・市町村重視の県政

運営を基本に、新たなとちぎの未来を見据えつつ、創造力と行動力を十分に発揮しながら、戦略性をもって県政の課題に果敢に取り組んで参る決意であります。

さて、昨年は、県政の基本指針である栃木県重点戦略「とちぎ元気発信プラン」をスタートさせ、本県の将来像である「人も地域も真に輝く 魅力あふれる元気な「とちぎ」の実現に向け、プランに掲げた各種プロジェクトを推進するとともに、喫緊の課題である人口減少問題の克服と地域の活力を維持するため、本県版まち・ひと・しごと創生総合戦略「とちぎ創生1.5戦略」の取組を本格的に展開した年でありました。引き続き、「元気発信プラン」

及び「1.5戦略」の着実な推進はもとより、教育や子ども・子育ての支援、若者や女性の活躍への支援など、自らの能力を発揮し、笑顔になれる「ひとが輝く」とちぎづくりを進めるとともに、栃木県の強みを生かした多様な産業の振興と安定した雇用の創出により、「成長力アップ」を図って参ります。

また、農業分野では、「稼げる農業」の実現を目指し策定した「とちぎ農業進化」躍動プラン」の中で掲げた「国際化に対応した水田・畜産経営の確立」「農産物のブランド力強化と輸出促進」など7つのリーディング・プロジェクトに基づき、各種施策を展開して参ります。

特に、畜産・酪農につきましては、地域全体で収益性を向上させる取組（畜産クラスター）や自給飼料の生産利用拡大等による生産

コストの低減、さらには家畜伝染病の発生防止対策等を推進し、畜産経営の体質強化を推進していく考えであります。

知事4期目の新たな年を迎えるに当たり、私は、「とちぎ」の先頭に立って、栃木県の多くの「本物」に磨きをかけ、あらゆる分野で「選ばれるとちぎ」の実現を目指し、全身全霊を傾けて参りますので、より一層の御理解と御支援をお願いいたします。

年の始めに当たり、私の所信を申し上げますとともに、酪農とちぎ農業協同組合の皆様にとって素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



新年の挨拶

青年部部长 山本 訓



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、益々ご活躍の事とお慶び申し上げます。部員の皆様、組合役職員の皆様には青年部活動に対し、格段のご協力とご指導を賜り、紙面を拝借して厚く御礼申し上げます。

さて、昨年6月の青年部総会において本部部長に選出され、新体制が発足しました。多数の新役員が選出されましたので、部員の皆様には本部事業へのご協力をよろしくお願い致します。

昨年を振り返りますと、7月に名古屋で行われた全国酪農青年女性酪農発表大会において、部員である宇都宮市の駒場靖史さんが経営発表の部で発表されました。残

念ながら最優秀賞には届きませんでした。素晴らしい発表でした。全国大会の参加は私にとって2回目でしたが、いずれも前向きに酪農に取り組む活躍している方々の発表は大変勉強になりました。

11月には保育園や小学校において、搾乳体験を県内4箇所(芳賀町、那須烏山市、矢板市、那須塩原市)で行いました。各支部搾乳体験の他、バター作りや仔牛とのふれあいなど趣向を凝らした企画もあったようです。実際に牛を見たり触れたりして「酪農」を感じ、牛乳や乳製品を食べた時に体験を思い出して貰えたら嬉しいです。

昨年、好評でした青年部研修会を今年2月に「第2回めざせ、酪農のプロフェッショナル!仕事の流儀」として開催します。普段聞くことの出来ない作業中のポイントなど、これからの酪農経営のためになるようなことを吸収して貰えたらと考えております。是非時間を作って頂き、昨年同様活発な意見交換が出来ればと思います。最後になりましたが、本誌読者の皆様の益々のご発展とご多幸をご祈念申し上げます、新年の挨拶と致します。

新年の挨拶

女性会会長 興野 礼子



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては益々ご活躍の事とお慶び申し上げます。女性会会員の皆様、組合役職員の皆様には女性会活動に対しまして格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

栃木県に於いては、平成28年度からの5ヶ年間とちぎの農業・農村男女共同参画第四期ビジョンが策定されました。

あらゆる場面で男女が共に能力を発揮し、活き活き輝くことができる農業・農村の男女共同参画社会をめざします。今、牛乳・乳製品の生産流通等の改革が求められている中、酪農とちぎ女性会は支部活動を中心に研修会、牛乳の料理教室等を開いての牛乳・乳製品の消費PR活動を意欲的に行って

います。11月19日には、東京武蔵野調理師専門学校に於いて牛乳料理コンクール関東大会が開催されました。2748名の中から選ばれた18名の出場であり、特に高校生の生徒さん、若い女性の参加の熱心さに感激いたしました。また11月28日には関東甲信越酪農青年女性会議研修会が開催され、女性会からも多数参加し他県の会員の方と交流を持つことができ、大変有意義でありました。

12月6日には、会員多数の参加を得て、女性会全体研修会を開催いたしました。演題は「基本を大切にしたい酪農経営」と題し、講師に(有)タマノアニマルクリニック代表取締役、玉野慎也氏にご講演いただきました。「最新が全て正しい訳ではない。繁殖管理・発情発見とストレス軽減・子牛の管理・牛のこ」とを基本を大切にします。」等を講演されました。牛を愛する大切さや、毎日の仕事の中での、基本の大切さを改めて反省しましたし、また、仕事への意欲も湧いた充実した研修会となりました。

これからも女性会活動に対しましてご支援、ご協力を賜ります様宜しくお願いいたします。最後になりましたが本年も皆様の益々のご発展とご多幸をご祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。



部課だより

生乳販売課

平成28年11月度の組合生乳生産量は、昨年同月乳量と比較し100.6%（1万9019t）と、5ヶ月連続し前年を上回る生産です。各支所の受入乳量は、那須高原支所は1万2348t（前年比100.6%）宇都宮支所2417t（前年比100.5%）、県南支所4254t（前年比100.5%）となり、各支所で生産量が前年を上回る状況でした。出荷者数は、前年同月より19戸減の442戸（内、学校は2校）でした。

11月度迄の平均乳質は、脂肪率は9月・10月と連続し前年を下回る状況でしたが11月は回復、無脂固形分率も同様に若干前年を上回る状況で推移、細胞数は5月・10月を除き前年を下回る好成績となりました。尚、11月の不合格件数は63件で、体細胞数の不合格件数が前年より24件減少したことが好影響となり、7ヶ月連続で前年を下回る状況です。

関東生乳販連の11月総受託乳量は8万7553tとなり、前年比99.5%、マイナス444tとなり、3ヶ月連続で前年を下回る状況になりました。

また、用途別の販売数量は、生乳生産量が前年を下回ったことに

加工向けは102.5%の実績で、加工向けも振るわず、加工向けが増加し、飲用向け前年比99.3%、加工向けは102.5%の実績です。

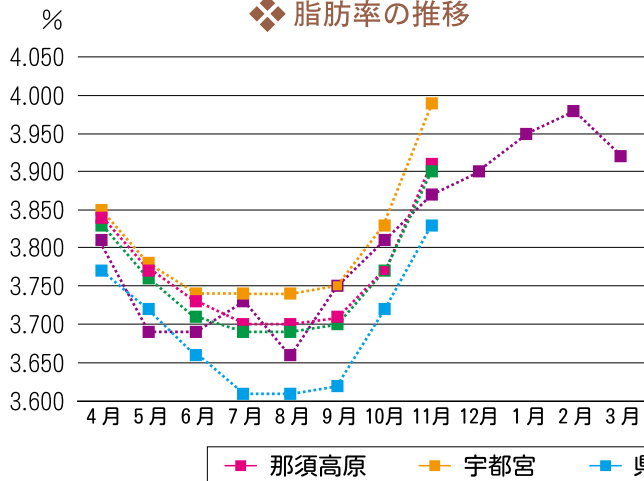
11月の全国の生産量は、北海道で前年比97.9%と3ヶ月連続の減少、都府県も98.8%と14ヶ月連続し前年を下回りました。このため、全国の生産量は98.3%と4ヶ月連続で前年割れの状況です。

尚、平成28年11月の生産量・乳質、関東生乳販連の用途別販売数量は別表のとおりとなっております。

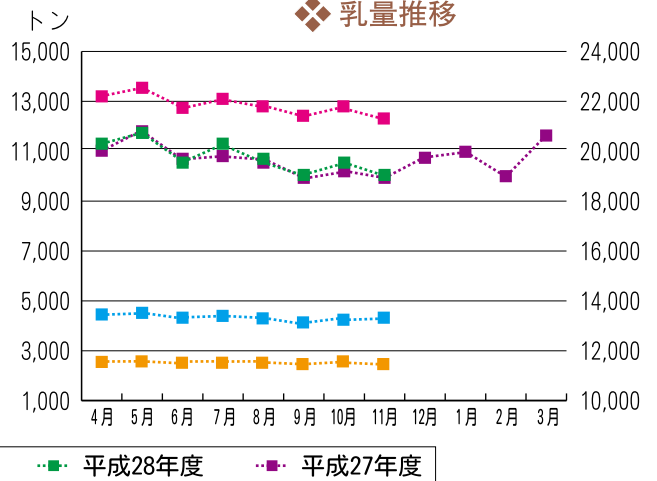
平成28年度 関東生乳販連用途別販売数量（単位：kg・%）

用途	11月期実績	前年同期実績	前年比	11月末実績(累計)	前年同期実績	前年比
飲用牛乳向け	68,573,828	69,091,083	99.3	561,973,069	563,035,195	99.8
(うち学校向け)	12,382,505	11,999,844	103.2	80,882,111	81,096,955	99.7
はっ酵乳向け	12,534,807	12,633,744	99.2	103,719,144	104,007,057	99.7
特定乳製品向け	4,703,596	4,590,089	102.5	53,842,527	56,764,358	94.9
(うち委託加工向け)	0	0	-	0	0	-
生クリーム向け	1,674,225	1,620,365	103.3	12,927,148	13,862,612	93.3
チーズ向け	66,261	61,758	107.3	506,762	528,946	95.8
全乳哺育向け	0	0	-	0	0	-
総受託乳量	87,552,717	87,997,039	99.5	732,968,650	738,198,168	99.3
加工比率	5.37	5.22	-	7.35	7.69	-

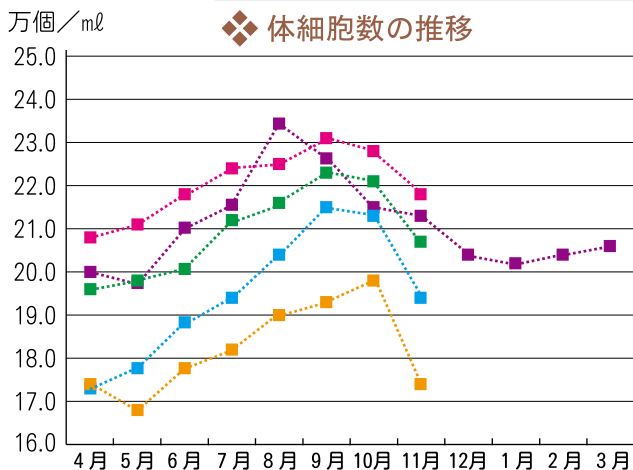
脂肪率の推移



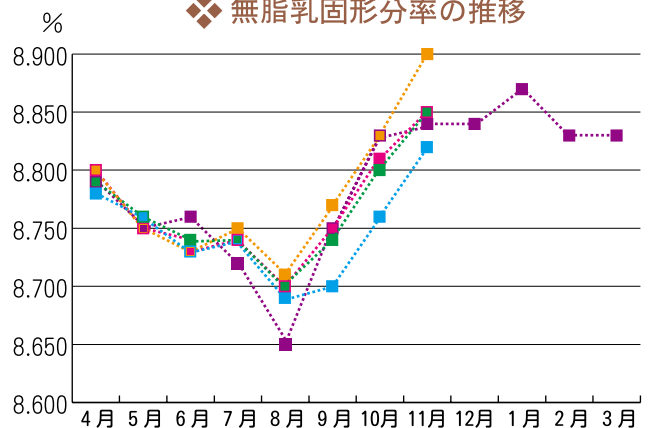
乳量推移



体細胞数の推移



無脂乳固形分率の推移



業務部

● クラスタ事業説明会を開催

12月3日、12月7日の2日間にわたり、各支所を会場に畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（機械導入事業）通称クラスタ事業の説明会を行いました。師走の多忙な時期にもかかわらず3支所合計で116名の組合員の方に参加いただきました。



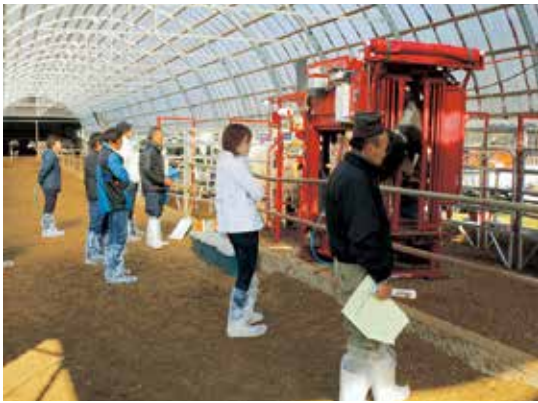
クラスタ事業説明会風景

両日共に県庁農政部畜産振興課の矢野課長補佐、栃木県畜産協会の飯島業務部長、檜山総務部長、菊池次長にご臨席いただき、皆さんの質問等に対して、分かり易くご説明をいただきました。

当事業に関しましては、基金化された中で事業が進められておりますので、今後も皆様から頂いたご意見等を参考に、事業推進を図って参ります。御協力の程よろしくお願いいたします。

● 栃木県削蹄師研修会開催

12月9日、栃木県削蹄師会（佐藤勇一会長）の研修会が会員20名の参加により開催されました。



削蹄実演会

午前の部は千本松牧場にて、(株)チーム那須代表取締役斎藤洋氏による削蹄実演会が行われ、積み重ねた経験談を交え、削蹄技術のポイントや蹄病対策について指導されました。

午後の部は栃木県畜産酪農研究センターにて県北家畜保健衛生所副主幹の齋藤俊哉氏を講師に迎え、牛の感染症と飼養衛生管理基準について講演していただきました。午前午後の部とも、実践的な意見や質問が出され貴重な研修会となりました。今後、削蹄技術は乳牛の健康管理において益々重要性を増すものと思われました。

● 第18回関東地区ホルスタイン共進会開催

共進会が埼玉で開催

2年に一度開催されている第18回関東地区ホルスタイン共進会が、11月22日から23日の2日間、埼玉県農業技術研究センター玉井試験場（熊谷市）において開催されました。

この共進会の主催は関東ホルスタイン改良協会（関東の1都6県の運営主体は当県の埼玉県畜産会が対応されました）。

審査員は熊本県の酪農家 松島喜一氏を迎えて1都6県より選抜された未経産牛48頭、経産牛46頭、合計94頭（本県出品牛は未経産8頭、経産8頭）で改良成果を競われました。

厳正なる審査の結果、本県から未経産牛



第18回関東地区ホルスタイン共進会 入賞牛一覧

区分	出品区分	名号	出品者		入賞結果
			住所	氏名	
未経産牛	第1部	タクヨウ ブラッドスター エlegant ET	那須塩原市下永田	栃木県立那須拓陽高等学校	1等賞2席
		ハーネスファーム LC ルル	那須塩原市壘沼	高塩 浩典	1等賞1席
	第2部	プラントツリー AW エグシード ET	日光市小林	植木 靖	1等賞2席
		タクヨウ ジョーダン サンダース ルル ET	那須塩原市下永田	栃木県立那須拓陽高等学校	2等賞4席
	第3部	ピックバリア マツカチエン リリス ET	那須塩原市青木	大関 悠太	優等賞1席
		MJ 1STダンデイズ ランガード B フタゴ	那須郡那須町大島	小松 俊介	1等賞3席
	第4部	ホクリヨウ マダム キツド メイ	真岡市下籠谷	栃木県立真岡北陵高等学校	優等賞3席
		タクヨウ キヤシー ガゼット ルキ	那須塩原市下永田	栃木県立那須拓陽高等学校	1等賞2席
経産牛	第5部	パインツリー アリゾナ ダーハム	那須烏山市小倉	中山 真介	1等賞1席
		ブルー ブラッド スパイラル	那須塩原市箭坪	相馬 義樹	2等賞3席
	第6部	MM ローリン ジエイズ	那須烏山市大里	松井 光	準名譽賞 優等賞1席・BU
		リージェント スパーク キム	那須塩原市関谷	和田 泰	1等賞1席
	第7部	タクヨウ ナリタツ ハッピー ダミオン	那須塩原市下永田	栃木県立那須拓陽高等学校	2等賞4席
		ハーネスファーム パイロット カツブ	那須塩原市壘沼	高塩 浩典	1等賞4席
	第8部	プラントツリー ラッキー リー ウインドストーム	日光市小林	植木 靖	1等賞1席
		BDIファーム ローゼッタ ミュンスター	芳賀郡芳賀町西水沼	大島 秀樹	1等賞2席

各クラスの審査結果は次の通り。

クラス3部（月齢18ヶ月以上〜21ヶ月未満）で大関悠太さん出品のピックバリア マツカチエン リリス ET号が優等賞1席を受賞されました。

また、経産牛クラス6部（月齢36ヶ月以上〜48ヶ月未満）で、松井光さん出品のMMローリン ジエイズ号が優等賞1席を受賞し、経産牛クラスの準名譽賞に輝きました。



東西南北

那須高原支所

支所活動推進協議会講演会開催

12月15日、那須高原支所において組合員及び関係者含め約70名が参加し、支所活動推進協議会（田代和一会長）による講演会が開催されました。

初めに第一部として、一般社団法人Jミルク専務理事前田浩史氏より「いまこそ求められる酪農乳業の取り組み」と題し、講演頂きました。講演内容として、最近の酪農生産基盤の現状、TPP・FTAによる乳製品自由化の加速、加工原料乳生産者補給金・指定団体制度の見直しによって今後わが国酪農乳業はどのような問題に直面するかを、豊富なデータを基に課題を分析し、それらの課題を踏まえ、わが国の酪農乳業を持続的に安定的に発展させるために、どのような取り組みや対策が必要か、現在Jミルクで考えられている対策事業について紹介されました。

つづいて第二部では、日本獣医生命科学大学の長田雅宏准教授より、「後継牛確保の得策と公共育成牧場の展開」と題し講演頂き、



講演会風景

生乳生産基盤の維持強化のための方策として以下の9点を挙げられました。

- ・ 自給飼料生産により農業所得率の向上・経費節減
- ・ コントラクター利用による自給飼料生産の外部化
- ・ 生乳生産重視の経営展開
- ・ 労働生産性・牛舎施設の効率的稼働の実現
- ・ 後継牛の自家生産のために性別技術を利用
- ・ 黒毛和種受精卵移植による分娩牛の付加価値向上
- ・ 育成牛の外部化・公共育成牧場の利用
- ・ 公共育成牧場は哺乳場を整備し2〜3ヶ月令から預託
- ・ 経営継承対策・新規参入者の環境整備と地域的支援

すでに取り組まれている組合員の方も多いかと思われませんが、日本各地の調査データから裏付けられたこれらの方策を実践することでさらなる経営向上が期待されます。

講演会後の質疑応答においても参加者から盛んに質問や要望がされ、有意義な講演会となりました。

宇都宮支所

支所協議会酪農セミナー開催

11月21日、支所活動推進協議会（松井実会長）主催の酪農セミナーが、宇都宮支所に於いて開催されました。講師には、ソリマチアドバイザーで本組合理事の根本壽一氏をお招きし、青色申告について16名が受講されました。

今回は、事前に組合員より青色申告における質問を徴集し、回答する形で行い、①肉用牛売却所得の免税制度②乳牛事故による受取共済金の非課税計算方法、この2項目及び関連として、相続税・贈与税等について説明を頂きました。

特に①の免税制度については、農業を営む個人が家畜取引法に規定する家畜市場など、特定の市場において肉用牛（交雑種・乳雄含む）を売却したとき「肉用牛売却証明書」が発行され、「肉用牛の売却による所得の税額計算書」等を、申告書と併せて税務署に提出

すること、免税措置が受けられるとの説明を受けました。現在も、肉用牛は高値推移していることから、免税制度をぜひ有効活用して頂きたいと思えます。

最後に、参加された方々はセミナーを通し、経営安定の一助に繋がっていく事と推察致します。

青年部・女性会の活動紹介

支所管内の直近の活動として、先ず11月25日、青年部那須南支部（中山智之支部長）で、酪農理解醸成活動を行いました。内容は、那珂川町立馬頭小学校4年生と父兄を対象に、搾乳体験とバター作り体験を行いました。約80名が参加され、青年部員10名が説明し各体験をして頂きました。体験者は搾りたての生乳の温かさに感動していました。



上手く搾れました



次に、女性会宇河今市支部（菱沼聖子支部長）では、11月30日、宇都宮市「ゆずの木」に於いて、前年に引き続き森久保薬品(株)を通して、ラレマンドバイオテック(株)の深沢博之氏を講師に、分娩前後の疾病予防について9名が受講しました。講演では、ボディコンディションスコアと疾病の関係等が説明され、改めて周産期における飼養管理の大切さを学びました。終了後は、楽しく懇談しながら会食し、散会しました。



分娩前後の疾病予防について受講

県南支所

全体交流会開催

12月14日、支所活動推進協議会（根本壽一会長）主催の全体交流会が県南支所において開催され、組合員や家族・従業員及び各関係

坂主組合長から挨拶



会場いっぱいの参加者

業者の方々等、約110名が親睦を深められました。当日の朝には雨も上がりましたが、寒空の中、参加者の準備・協力を得ながら、無事開催する事が出来ました。

まず、坂主組合長から酪農情勢について報告を頂き、その後恒例のバーベキューとビンゴゲームで、大いに盛り上がりました。会場内は笑いど活気に満ちあふれ、参加された皆さんは明日への活力に繋がる、有意義なひとときとなりました。



恒例のバーベキュー

理事会だより

11月度理事会（11月30日）

報告事項

- (一) 組合員の加入脱退について
- (二) 業務経過報告について
- (三) 組合資金貸付について
- (四) 組合プール乳価について
- (五) 東京電力原発事故農畜産物損害賠償について
- (六) 関東生乳販連情報について

協議事項

- (一) 10月度事業実績について
- (二) 乳価安定特別積立金の活用（案）について
- (三) 平成28年度組合購買利用推進女性研修会の実施について（案）
- (四) 平成29年乳代送金日の設定及び対応について
- (五) 年末手当の支給について

お知らせ

《組合員加入のご案内》

牛・人・自然との共生をめざす酪農とちぎでは、運営をご支援していただける組合員のご家族様のご加入申し込みをお待ちしております。酪農とちぎは、組合員の皆様の方と出資金によって運営されていきます。酪農に従事されているもの、組合に加入されていないご家族の方等がいらっしゃる場合は、ぜひご加入を検討いただけますようお願い申し上げます。尚、出資金は、一口一〇〇〇円から加入できます。（最高出資額は五〇〇万円まで）

11月度 ホクレン初妊牛市場成績（単位：千円（税込））

市場名	開催日	出場頭数	成立頭数	取引率	平均価格	（そのうちET牛）		
						出場頭数	成立頭数	平均価格
十勝	11月8日	560	455	81.3%	838	75	71	1,022
釧路	11月9日	254	220	86.6%	806	9	8	955
根室	11月10日	407	362	88.9%	840	42	38	988
豊富	11月17日	363	287	79.1%	770	8	5	991
根室	11月24日	194	187	96.4%	897	19	19	1,054
北見	11月28日	392	359	91.6%	883	20	19	1,020
十勝	11月29日	685	619	90.4%	890	116	112	1,105
合計		2,855	2,489	87.2%	846	289	272	1,031
前月		2,393	2,125	88.8%	807	221	188	939
前年同月		2,028	1,600	78.9%	590	110	94	724

初妊牛の今後の動向は、3～5月分娩予定の牛が中心となります。春産みの資源が道内で不足する中、道内外の導入意欲が非常に高く、これが初妊牛相場上昇の主要因となっています。特に雌雄別別産初妊牛の引き合いが非常に強まっている模様です。全体の引き合いの強さは低下することなく、今後も継続すると見られており、さらなる相場上昇が見込まれています。受胎卵腹についても前号にて100万円を超える事態が発生しているとお伝えしましたが、今回平均価格が100万円を超す事態となっています。導入を希望される方は速履・種付け前育成も視野に入れた上、条件・価格等に十分余裕を持ってのお申込みをお願い申し上げます。

11月度 県内家畜市場成績（単位：千円（税込））

市場名	種別	出場頭数	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均	前回比
須	F 1雄	147	147	64	396,360	122,040	290,858	6,458
	F 1雌	107	107	60	294,840	108,000	202,303	15,484
館林	ホルス雄	1	1	100	116,640	116,640	116,640	64,800
	F 1雄	13	13	98	395,280	251,640	350,501	19,726
	F 1雌	20	20	96	313,200	238,680	278,856	16,416

今回の初生牛取引価格は前回から比較し、那須・館林市場共にやや強含みで推移しています。元牛相場や枝肉市場等の動向で初生牛相場も影響を受けますが、前号に続き一定のラインで値動きを繰り返している状態です。今後も同様に回ごとに値動きしながら、全体としてやや強含みで推移していくものと思われます。

